

令和 8 年度 市政懇談会 開催議事録

開催日時：令和 8 年 7 月 27 日（月）午後 1 時 30 分～3 時

開催場所：笠間市社会福祉協議会 本所

出席者：12 名

《意見交換》

- 1 区長制度について
- 2 行政区長と自治会長について
- 3 障がい者の雇用について
- 4 若手職員の離職防止策について
- 5 生活困窮者について
- 6 子ども会の解散と若者・高齢者のつながりについて
- 7 デマンドタクシーについて
- 8 施設の老朽化について
- 9 災害ボランティアセンターについて
- 10 ケアマネージャーのシャドーワークについて
- 11 介護事業について
- 12 ボランティアの人材確保と育成について
- 13 地域の方とのつながりについて
- 14 健康への取り組みについて

1 区長制度について

【意見等】

行政も社会福祉協議会も区長の存在は大きいと考えているが、行政区に加入する方も少なく、区長の負担も大きいと思う。

【回答】

行政区と自治会で役割が重なっているところもあり、区長制度そのものが必要なのか考えていかなければならないと思う。個人的な考えでは、300～500 人に 1 人、住民の意見を行政に伝える行政連絡員のようの方がいるとよいと思う。区長制度は全国的な課題でもあるため、負担軽減に努めている。行政区の在り方そのものについて考えていきたい。

2 行政区長と自治会長について

【意見等】

行政区長と自治会長が別なところはあるか。

【回答】

市で把握しているところは 5 か所程度ある。役割が重なっているところもあるが、本来は別であることが望ましいと考える。

3 障がい者の雇用について

【意見等】

法律により障がい者の雇用が義務付けられているが、市の状況はどのようになっているか。

【回答】

障がいの程度にもよるが、できることをできる範囲でやってもらう仕組みづくりが必要である。法律に基づいて、官民でどのような取り組みができるかは総合的に考えていく必要がある。

4 若手職員の離職防止策について

【意見等】

若手職員の意識も変わってきており、離職者が増えてきている。市役所ではどのような離職防止の取り組みを行っているか。

【回答】

できる限り長く勤務してほしいが、それぞれ目的があって離職する方もおり、それを止めることは難しい。働きやすい職場環境づくりなど、職場がどのように対応していくかが課題である。市役所では、すべての意向を反映させることは難しいが、入庁時に希望の部署を聞いている。若手の離職は社会として大きな問題であり、組織にとって離職防止の取り組みを行うことは必要である。

5 生活困窮者について

【意見等】

全国から派遣で市内に来る方も多いが、地域に根ざす方が少なく、支援が難しい。

【回答】

生活困窮者を一人でも多く減らすことが大切であるが、働き方に対する考え方が変わっていることも現状としてある。生活困窮者の方に自立していただくための政策の展開が必要と考える。

6 子ども会の解散と若者・高齢者のつながりについて

【意見等】

子ども会の解散が多い。また、若者と高齢者のふれあいの機会が少なくなっている。

【回答】

人口が少なくなっている地域では、組織の活動ができなくなっているところもある。区長制度なども含めて地域の再編をしていく必要があると思う。

7 デマンドタクシーについて

【意見等】

免許を返納し、デマンドタクシーを利用する方が増えているが、朝に予約が取れないことが多く不便だと感じる。

【回答】

デマンドタクシーについて利便性向上に取り組んでおり、そのひとつとして、車いすの方も利用可能な車両の導入について検討を進めている。それらも含め、今後、公共交通の在り方について示していく。

8 施設の老朽化について

【意見等】

大規模な修繕がすぐにはできないことは承知しているが、施設の老朽化が進んでいるところの修繕計画などはあるか。

【回答】

人口が減少してきているため公共施設も縮小していかなければならないと考えている。施設の複合化も含めて検討していきたい。

9 災害ボランティアセンターについて

【意見等】

2年ほど前から社会福祉協議会で災害ボランティアセンターの設置訓練を実施しており、昨年度は75名が参加、市役所の職員にも参加してもらった。今後も市と社会福祉協議会の役割分担をしっかりと行い、訓練についても協力して取り組んでいきたい。

【回答】

災害時に支援が必要な方や高齢者の避難は重要であり、訓練も含めて社会福祉協議会や民生委員など地域で連携して進めていきたい。

10 ケアマネージャーのシャドーワークについて

【意見等】

身寄りのない高齢者の支援や契約が満了となった利用者の支援が増えている。病院などその方々を取り巻くさまざまな分野の方が、どのように支えていくかを視野を広げて考えていく必要があると感じる。

【回答】

ケアマネージャーを含め専門職の連携した対応、視野を広げて考えてもらう機会も必要である。地域包括支援センターが中心となって取り組むものである。利用者からのハラスメントも課題となっており、ハラスメントを受けた場合には、サービスを一時停止するなど、サービス提供側が不安を感じないように、守る仕組みが必要である。利用者や家族にも理解してもらうなど、フォローを含めた仕組みづくりを進める必要がある。

11 介護事業について

【意見等】

介護事業は独立採算で人件費や原材料費の増加もあり、成り立たなくなっている。全国的な人材不足で事業所の共同化、大規模化などが進んでいるので、そのようなことも考える必要があるのでは。

【回答】

介護保険財政の悪化により介護報酬の増加も見込めないため、事業所側もこれまでと違う経営が必要で、事業の廃止、見直し、統合などが出てくると思う。市が先導するのは難しいが、議論は必要と考える。

12 ボランティアの人材確保と育成について

【意見等】

さまざまなサークルや講座などを実施しているが、高齢化や固定化が進んでおり、活動につながらない状況である。継続して活動を行う方が増えないので、社会福祉協議会でも考えていかないといけない。

【回答】

ボランティアの担い手確保は課題である。高齢の方でも働く方が増えてきており、人材の確保も難しい。災害などではボランティアが大きな力になるため、接点づくりを一緒に考えていきたい。

1 3 地域の方とのつながりについて

【意見等】

地域のつながりが希薄になってきているという声をよく聞く。地域で話をする、議論することが大切であると思う。関係を築くことが市や社会福祉協議会の活動につながる。地域全体で支える福祉づくりなどを考えていただけないか。

【回答】

地域で生まれ育っている方は、地域に守られて、愛着心を持っている方が多い。地域のつながりは福祉のみならず、すべてにおいて地域全体で取り組むべきものとして位置付ける必要があると考える。

1 4 健康への取り組みについて

【意見等】

健康のために気軽に運動ができる施設を整備できないか。

【回答】

市が運動施設を新たに整備することは難しい。民間でもいくつかでき始めているので、民間の施設を使ってほしい。健康づくりとして、運動に関心のない方をどう引き出すかが重要であると考えている。